

(様式2)新規評価シート

建設部 砂防課

事業名	急傾斜地崩壊対策等事業		路河川名等	門前		
事業毎の通番	4	市町村名	大桑村	箇所名(ふりがな)	門前(もんぜん)	
事業目的	当箇所は大桑村中心部の木曾川左岸に位置し、勾配42°、最大高さ20mの急斜面で、保全対象として人家13戸、一般県道須原大桑(停)線、門前下集会所、災害時要援護者関連施設「宅幼老所しゃくなげ」がある。平成19年9月18日には土砂災害警戒区域及び特別警戒区域に指定されている。斜面は急勾配で湧水や押し出しの変状もあることから、当面の対策として大桑村では、地元要望を受けて単独費により一部斜面崩壊対策として板柵の設置を行っている状況である。このため早急に対策を講じ、民政の安定を図るものである。					
しあわせ信州創造プランにおける位置付け	4-1 地域防災力の向上(災害に強い地域づくり)	事業実施の根拠法令等	急傾斜地法			
関連する事業、計画等						
保全対象・範囲 受益対象・範囲	保全対象: 人家13戸 公共施設: 門前下集会所、一般県道須原大桑(停)線					
着手年度	H27	事業期間	H27~H30	事業費(千円)	財源内訳(千円)	
完成年度(見込み)	H30	費用対効果	4.9		国庫 72,000 其他 16,000 県債 64,800 一般財源 7,200	
全体事業内容(主な工種)	法面工 L=200m			160,000		
年度事業内容(主な工種)	・地質調査 1式 ・地形測量 1式 ・詳細設計 1式			20,000	9,000 2,000 8,100 900	
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	土砂災害特別警戒区域指定の解除				
	間接的効果(定量的・定性的)					
評価の視点	必要性	○保全人家: 13戸 ○保全公共施設: 門前下集会所、一般県道須原大桑(停)線 ○災害時要援護者関連施設: 一般施設(宅幼老所しゃくなげ) ○避難場所・避難路: なし			評価	A
	重要性	○過去の災害履歴: 災害履歴地 ○交通影響: 中(一般県道須原大桑(停)線) ○地域防災計画上の位置づけ: なし			評価	B
	効率性	○費用便益費(B/C): 4.92 ○事業期間: 4年(H27~H30) ○工法等の比較検討: 検討なし			評価	A
	緊急性	○斜面の高さ: 平均高さ15m ○斜面植生: 普通 ○斜面平均勾配: 35° ○保全対象の位置: がけ下13戸 ○斜面地質: 段丘堆積物 ○斜面形状: 谷地形			評価	B
	計画熟度	○事業情報の共有: 関係者以外にも周知 ○地域要望: 協力的である ○地域合意: 事業目的について合意形成が図られている ○住民との協働: 住民独自の取り組みが予定されている			評価	A
	部意見	保全対象に人家13戸、災害時要援護施設1棟がある。斜面は湧水や変状も見られているため、早期に対策を行う必要がある。	行政改革課意見	勾配42度、高さ20mの急斜面で土砂災害特別警戒区域に指定されている。保全対象に人家、県道が存在していることから、必要性が認められる。	評価結果	総合評価

【位置図、平面図、構造図等】(縮尺任意)

**平面図**

**凡例**

- H27
- H28以降
- 土砂災害特別警戒区域
- 土砂災害警戒区域

**位置図**

**横断面図**

**安全対象**

事業概要説明図表

①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	当箇所は勾配42°、最大高さ20mの急斜面で、保全対象として人家13戸、一般県道須原大桑(停)線、門前下集会所、災害時要援護者関連施設「宅幼老所しゃくなげ」があり、平成19年9月18日には土砂災害警戒区域及び特別警戒区域に指定されている。
②地域からの要望経緯及び地域の関わり	地域住民、大桑村から要望がある。平成24年度に、大桑村単独費により、一部斜面崩壊箇所について応急対策を実施している。
③事業説明等の経緯	H19.9土砂説明会開催
④他事業・プロジェクトとの整合、関連	
⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	詳細設計時に配慮について検討の予定。
⑥地域活性化への影響と配慮	地域住民は対策に対する関心が高いため、避難体制の整備及び施設の維持管理について、今後地元説明会等で積極的な関与を促したい。
⑦その他	

事業代表地点の緯度経度

北緯:N35° 41' 56"
東経:E137° 41' 59"